



「看護師の村岡一恵さんが吹いているのは、亡くなった患者様のフルートです。その患者様は村岡さんが学生時代、吹奏楽部でフルートを吹いていたことを知り、これからも自分の代わりにずっと吹いて欲しいという願いを込めてプレゼントしてくださいました」（塚千代さん）

photo 藤田佳久

週に一度、1時間だけの喫茶店

塚 千代・文
函館おしま病院
ホスピス病棟看護師長



福岡市出身。順正高等看護専門学校（岡山県高梁市）卒業後は岡山大学医学部付属病院消化器外科に勤務。その後九州で最初のホスピスが開設された栄光病院（福岡県粕屋郡志免町）へ移り、同病院のホスピス病棟で9年間勤務する。平成15年函館おしま病院に赴任。平成16年には道南で最初の認定看護師（緩和ケア）となる。

毎週金曜日1時間だけの「喫茶」が開店する。ポラントイアがテーブルに花を飾り、お茶やお菓子の準備をしてお客様を待っている。最初は、普通の喫茶店のように小さくBGMを流し、お喋りをするスタイルだったが、いつしかうたごえ喫茶に変わっていった。

談話室にはピアノがあり、間島総師長が「〇十年ぶり？」のタッチで旋律を奏で始めた。童謡や唱歌を自然に口ずさみ、なつかしい思い出が語りだされる。そのうち映画音楽から、歌謡曲、演歌までリクエストに応えてバラエティーに富んでき

た。毎週参加するうちに声が出るようになって元気が出てきたと喜ぶ人や、喫茶に出るうちに、「来週はこの曲を歌おう」と積極的に参加される人も。中には、スタッフの潜在能力を引き出し、〇年ぶりの楽器演奏の披露を演出してくださる方も。おかげで彼女達のレパートリーも確実に増えている。楽しい雰囲気は誘われ、時に福徳院長のギター弾き語りも加わる。

入院生活の中のほんのひと時だが、それぞれの人生が語り紡がれる豊かな時間につながっている。